令和８(2026)年１１月２６日

保護者の皆様

札幌市立川北小学校
校長　上田　繁成

『令和8年度　全国学力･学習状況調査』結果概要のお知らせ

初冬の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、令和８年４月に実施しました６年生対象の「全国学力・学習状況調査」の結果概要がまとまりましたので、今後の改善の方向と併せてお知らせいたします。

なお、この調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解いただきたく存じます。今後とも、本校教育活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

全国学力・学習状況調査の内容

○教科に関する調査（国語・算数）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

・知識･技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価･改善する力

○生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【国語科に関する調査の結果概要及び課題と改善の方向性について】

【知識及び技能】

■『言葉の特徴や使い方に関する事項』

全国平均を下回っている。

■『情報の扱い方に関する事項』

全国平均を下回っている。

【思考力・判断力・表現力等】

■『話すこと・聞くこと』

全国平均を下回っている。

■『書くこと』

全国平均を下回っている。

■『読むこと』

全国平均をやや下回っている。

今回の調査における課題

●文章を読んで自分の考えをまとめたり、その理由を分かりやすく書いたりすること。

●文章やグラフ・表など、複数の資料を見比べて「共通点」や「違い」を見つけ出し、関連づけること。

●「なぜそう考えたか」という理由を、文章中の言葉や資料の事実をもとに説明すること。

●読み取った内容を自分の言葉として発信する（書く）こと。

課題改善の方向性

○授業の振り返りなどで「今日の学びを 50 字でまとめる」といった短い記述を日常的に取り入れ、書くことへの心理的なハードルを下げる。

○問題を解く際に文字数や指定語句などの条件に印をつけるなど、書き終えた後に自分でチェックできる力を養う。

○頭の中だけで考えず、ベン図や表などに情報を書き出して整理することで、「比較する力」や「根拠を見つける力」を育てる。

○「どうしてそう思ったの？」と問いかけるなど、根拠をもって話したり・書いたりする習慣を付ける。

【算数科に関する調査の結果概要及び課題と改善の方向性について】

観　点　別

【知識・技能】観点
■**全国平均を下回っている。**
【思考・判断・表現】観点
■**全国平均を下回っている。**

領　域　別

■『数と計算』領域
全国平均を下回っている。
■『図形』領域
全国平均を下回っている。
■『測定』領域
全国平均をやや上回っている。
■『変化と関係』領域
全国平均を下回っている。
■『データの活用』領域
全国平均をやや下回っている。

今回の調査における課題

●２つの数量がどのように変わっていくかという関係性を捉え、割合や単位量あたりの大きさなどを求めること。

●「なぜその式になるのか」「どうしてそう言えるのか」を根拠をもって説明すること。

●表やグラフから必要な数値を読み取り、傾向を分析して自分の判断の理由として活用すること。

●複雑な応用問題に取り組む前段階としての、計算の正確さや図形の基本的な性質の理解。

課題改善の方向性

○問題文の数字だけで式を立てようとせず、数直線や関係図、表などを自分の手でかいて数量同士の関係を目に見える形で整理する力を養う。

○友だちの考えた式の意味を読み取ったり、自分の解き方の理由を、根拠をもって順序立て説明したりするペア・グループ学習を重視する。

○朝学習や家庭学習と連動し、計算のきまりや図形の基本事項を短い時間で繰り返し確認し、知識・技能の土台を固める。

【生活習慣や学習環境に関する質問紙調査にかかわって】

肯定的な回答が多かったもの

○自分には、よいところがあると思いますか。

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

○人が困っているときは、進んで助けていますか。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

○友達関係に満足していますか。

○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

否定的な回答がやや多かったもの

●普段、１日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか。

●土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

●授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。

●算数の勉強は得意ですか。

●英語の勉強は得意ですか

今回の調査における傾向

〇「自分にはよいところがある」「困っている人を助ける」「友達関係や先生との相談環境に満足している」と答えた児童が非常に多く、安心できる環境の中で互いを認め合う心が確実に育っていることがうかがえます。

〇生活習慣に関して、スマートフォンやタブレットにおける平日の SNS や動画視聴・ゲームなどの時間が長い傾向にある一方、土・日に、机に向かって勉強する時間が短い児童がやや多く見られます。

〇「授業で学んだことを実生活につなげて考えられる」「算数や英語が得意である」と実感している児童がやや少ない結果でした。今後は、各教科における学習の楽しさや達成感をさらに高められるような指導が必要となります。

課題改善の方向性

〇道徳などで発揮されている「友達と話し合い、考えを深める力」を日々の授業にも広げ、友だちと教え合いながら学ぶ楽しさを実感できる環境を大切にしていきます。

〇学校では情報モラル教育を継続して行います。ご家庭におかれましても、引き続きスマホやゲームの利用ルールを話し合う機会をもっていただきますよう、ご協力をお願いします。短時間でも無理なく机に向かえる自主学習や宿題の工夫を引き続き行います。

〇「学んだことが日常生活のどんな場面で役立つか。」を実感できる課題を取り入れるとともに、特に苦手意識の強い算数や英語では小さな成功体験を積み重ね、学習に対する自信を養います。

今後も、子どもたちが自分らしく安心して過ごし、さらに成長していけるよう、学校全体で取り組んでまいります。

引き続き、ご家庭のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。